



令和7年11月27日
釧路開発建設部

E38 どうとうじどうしゃどう あかん くしろにし 道東自動車道（阿寒IC～釧路西IC）

開通後の交通状況をお知らせします

～産業、物流、観光、災害面における効果～

令和6年12月22日に開通した道東自動車道（阿寒IC～釧路西IC）の開通後の交通状況等について、お知らせします。

<開通後の道東自動車道の交通量>

○阿寒IC～釧路西IC開通後の本別IC～阿寒ICの交通量は、平成30年と比較して約2～3割増加し、平均交通量は5,000台/日以上でした。

<開通に伴う効果>

○道東自動車道の延伸に伴う交通利便性の向上等により、釧路管内では工業団地の分譲面積が増加しました。

○阿寒IC～釧路西ICの開通により、釧路港から士幌町飼料工場への飼料原材料の輸送を1日2往復できる車両が増加し、飼料供給の効率性向上に寄与しています。

○阿寒IC～釧路西ICの開通により、並行する国道240号や国道38号の死傷事故やエゾシカ衝突事故が減少し、安全性が向上しました。

○阿寒IC～釧路西IC開通後の釧路・根室地域内での1人あたりの観光消費額は、開通前と比較して、道内客・道外客ともに増加していました。

○北海道で初めて線状降水帯が発生した令和7年9月の大雪によるJR運休時には、道東道を利用した旅客・貨物の代行輸送が行われ、人流・物流の維持に貢献しました。

※1 交通状況等の詳細については、別紙をご参照ください。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部

道路計画課 課長 高橋 廉 電話：0154-24-7268（内線3351）

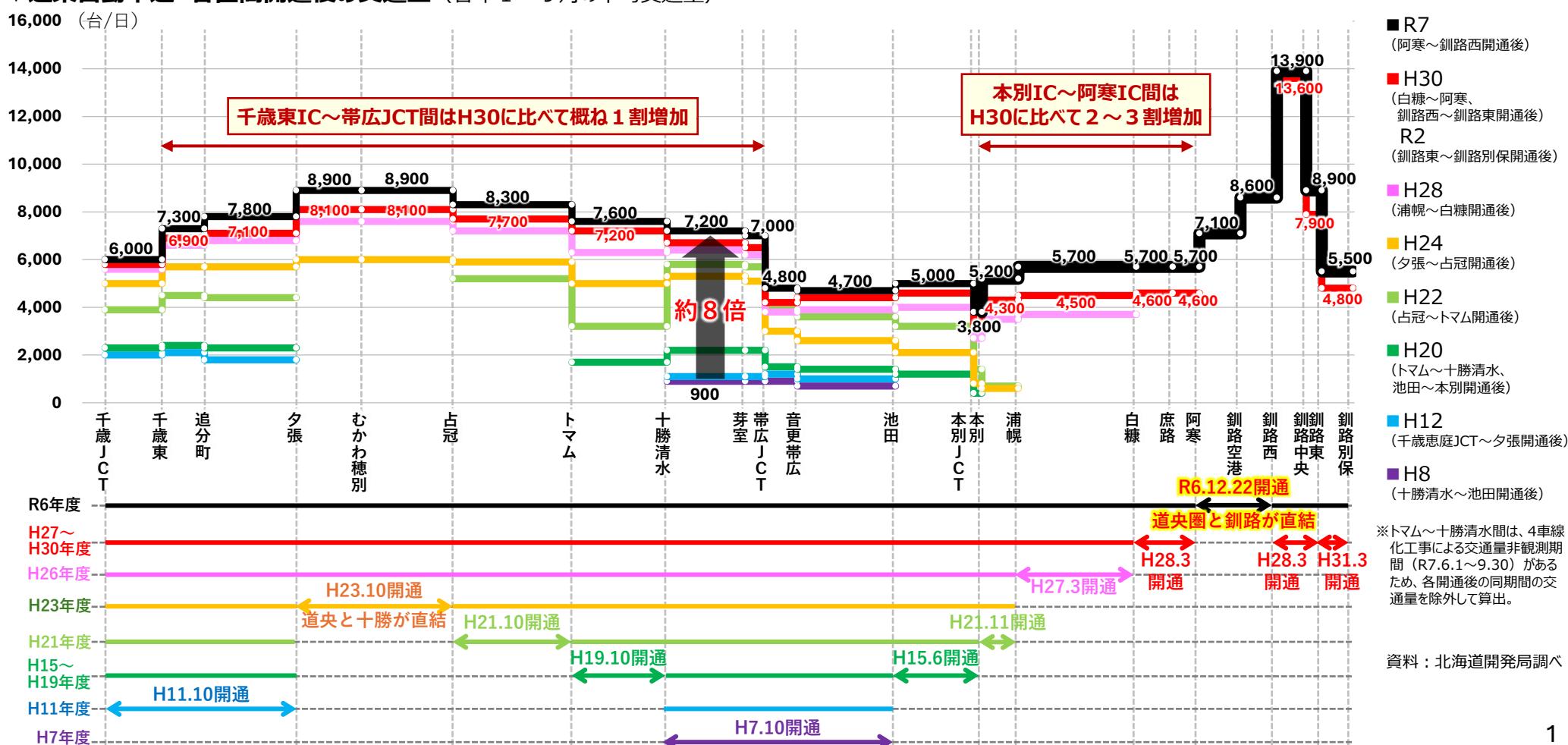
広報官 鈴木 亮 電話：0154-24-7356（内線3379）

釧路開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/>



- 道東自動車道は平成7年10月に十勝清水IC～池田ICが開通し、その後、順次開通・延伸。
- 令和6年12月に阿寒ICから釧路西ICが開通し、道央圏域～十勝圏域～釧路圏域がつながった
令和7年の十勝清水IC～池田IC間の交通量は平成8年と比べて約8倍に増加。
- 本別IC以東の交通量も増加傾向にあり、令和7年は5,000台/日以上が利用。

▼道東自動車道 各区間開通後の交通量（各年1～9月の平均交通量）

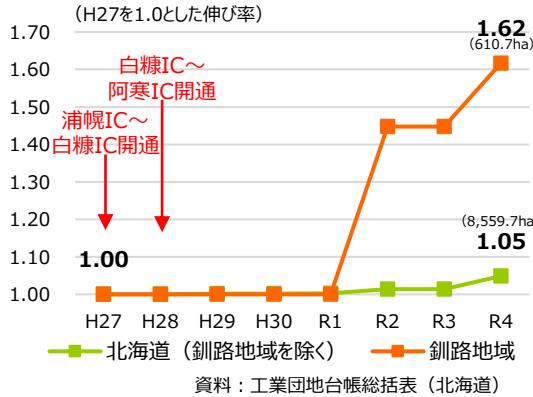


道東道沿線の工業団地立地状況

- 道東自動車道の延伸に伴う交通利便性の向上等により、釧路管内では工業団地の分譲済面積が増加。
- 平成23年の夕張IC～占冠IC開通以降、釧路市では食料品・飲料関連の製造品出荷額が増加傾向となり、令和5年の出荷額は過去最高※。

※1993年以前と1994年以降は調査方法が異なり、経年比較できる1994年以降の調査方法において過去最高

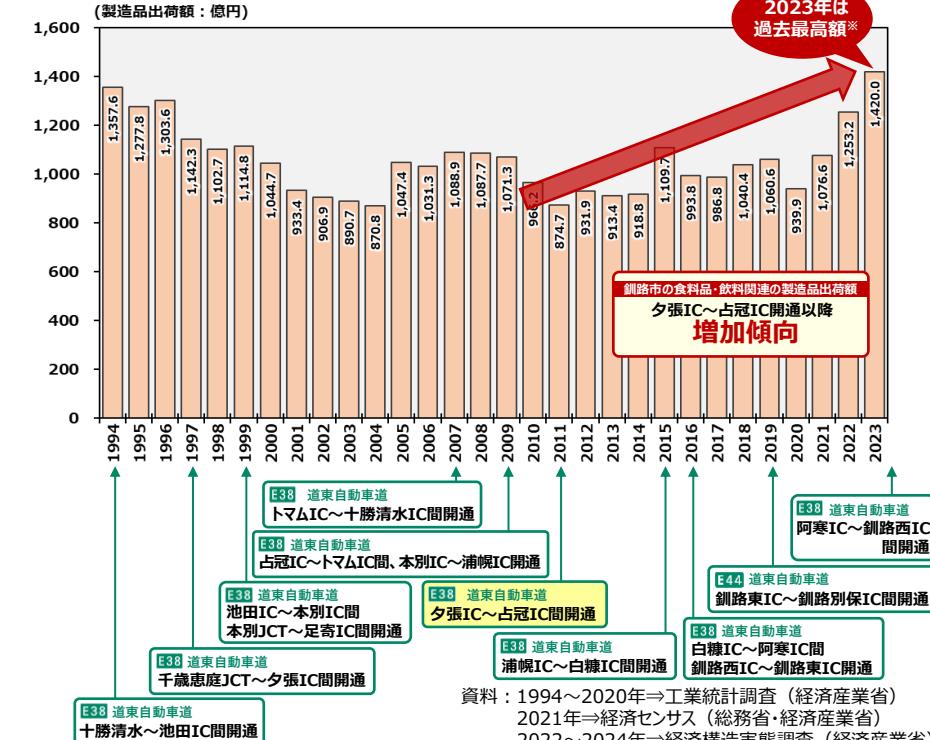
工業団地の分譲済面積（伸び率）



▼釧路地域の工業団地立地状況



▼釧路市の食料品・飲料関連の製造品出荷額の推移



声 釧路市役所

これまでの道東道延伸等のインフラ整備により、釧路市内では製造工場や物流拠点・倉庫等の新規立地・設備投資が促進されてきました。

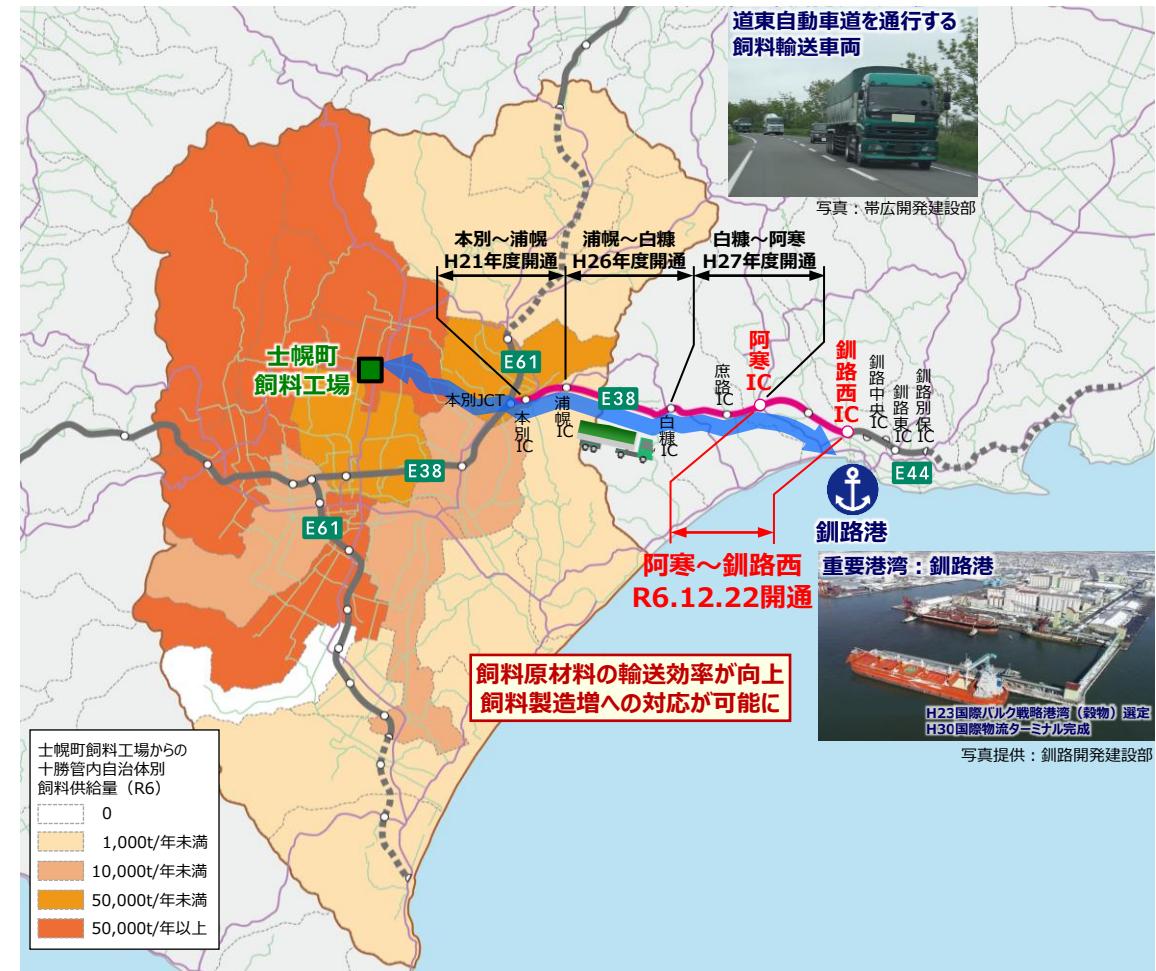
道東道が釧路まで延伸されたことを受け、新たな工業団地の候補として、市内のIC付近を検討中です。

（現在の釧路市内の工業団地の分譲率は98%）

道東道が飼料供給の効率性向上に寄与

- 十勝管内では乳用牛、肉用牛の飼養頭数増加に伴い、育成に必要な飼料供給量が増加傾向。
- 阿寒IC～釧路西ICの開通により、釧路港から士幌町飼料工場への飼料原材料の輸送を1日2往復できる車両が増加し、飼料供給の効率性向上に寄与。

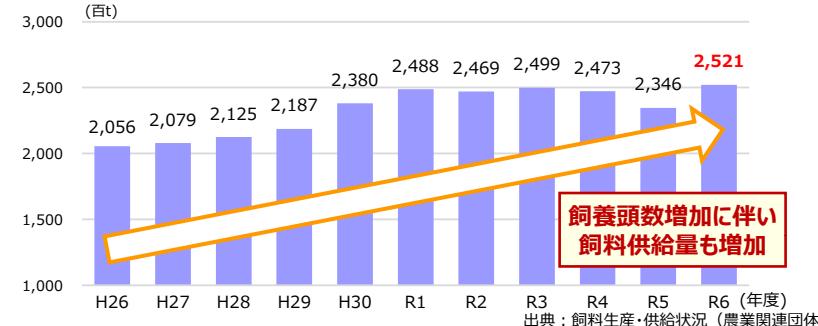
▼釧路港から士幌町飼料工場への飼料原材料輸送動向



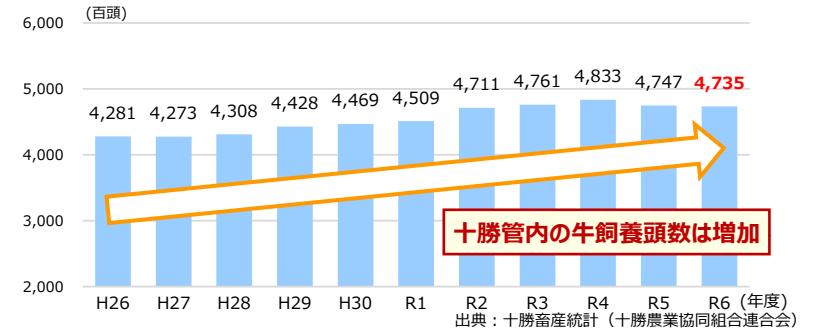
声 飼料輸送会社

- 士幌町で製造する飼料の原材料はほぼ釧路港から輸送しているが、白糠IC開通前は、国道38号を利用していたためトラック20数台が1日1往復しか輸送できず、士幌に輸送できる量が限られていた。
- 道東道が阿寒ICまで伸びたことで、1日1～数台は2往復できるようになり、昨年、釧路西ICまでつながったことで、全体の約半数の10台程度が1日2往復できるようになった。釧路西ICの開通により、1往復当たりの輸送時間が約20分短縮され、飼料原材料の輸送効率がさらに向上した。

▼士幌工場における十勝管内への飼料供給量



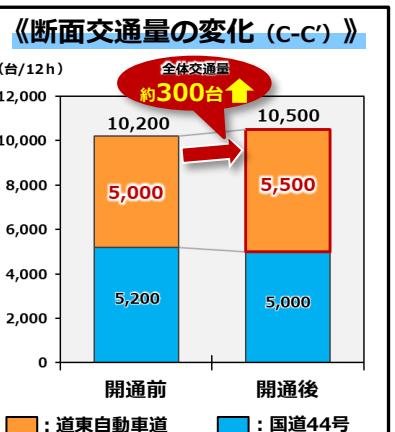
▼十勝管内の牛飼養頭数（乳用牛+肉用牛）



釧路地域の断面交通量、交通安全性の変化

- お盆期間の交通状況は、阿寒IC～釧路西ICの開通区間に並行する一般道（国道240号、道道徹別原野釧路線）を利用する交通の約6割が道東自動車道に転換しており、**開通区間の断面(B-B')**の12時間交通量が増加。
- 阿寒IC～釧路西ICの開通により、**並行する国道240号や国道38号の交通事故が減少し、安全性が向上。**

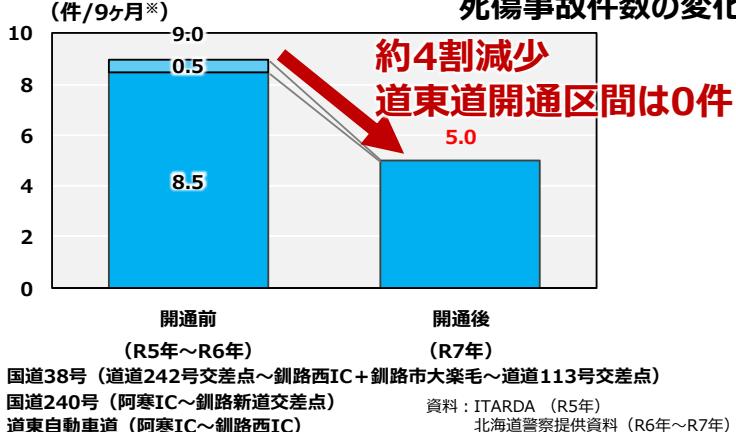
▼断面交通量の変化



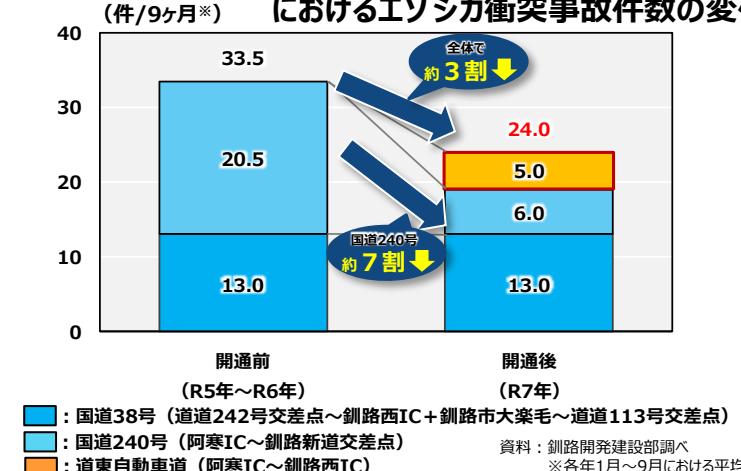
※ 開通前 令和6年8月10日(土)～令和6年8月18日(日)の平均12時間交通量(7:00～19:00) (国道44号の交通量は欠損のため、令和6年8月10日(土)を対象に集計)
※ 開通後 令和7年8月9日(土)～令和7年8月17日(日)の平均12時間交通量(7:00～19:00) (国道44号の交通量は欠損のため、令和7年8月9日(土)を対象に集計)



▼道東道開通区間及び開通区間に並行する国道における死傷事故件数の変化



▼道東道開通区間及び開通区間に並行する国道におけるエゾシカ衝突事故件数の変化



十勝・釧路地域の観光入込客数が増加

○十勝・釧路地域の観光入込客数は占冠IC～トマムIC、夕張IC～占冠IC開通以降、増加傾向。コロナ禍を経て、同地域の令和6年度の観光入込客数は過去最高※を記録。

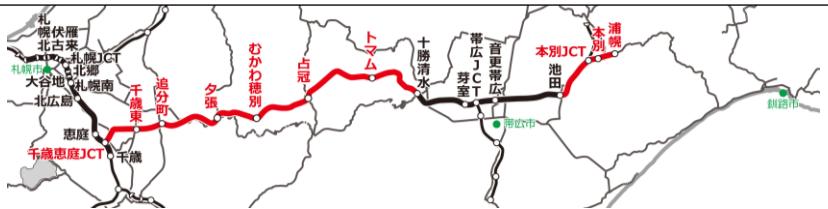
※1996年以前と1997年以降は調査方法が異なり、経年比較できる1997年以降の調査方法において過去最高

▼道東自動車道の延伸

1995年（平成7年） 十勝清水IC～池田IC開通



2011年（平成23年） 夕張IC～占冠IC開通



2016年（平成28年） 白糠IC～阿寒IC開通、釧路西IC～釧路東IC開通



2024年（令和6年） 阿寒IC～釧路西IC開通



▼道東自動車道の延伸による観光入込客数の変化

1995 (H7) 十勝清水IC～池田IC

1999 (H11) 千歳恵庭JCT～夕張IC

2003 (H15) 池田IC～本別IC
本別JCT～足寄IC

2007 (H19) トマムIC～十勝清水IC

2009 (H21) 占冠IC～トマムIC
本別IC～浦幌IC

2011 (H23) 夕張IC～占冠IC

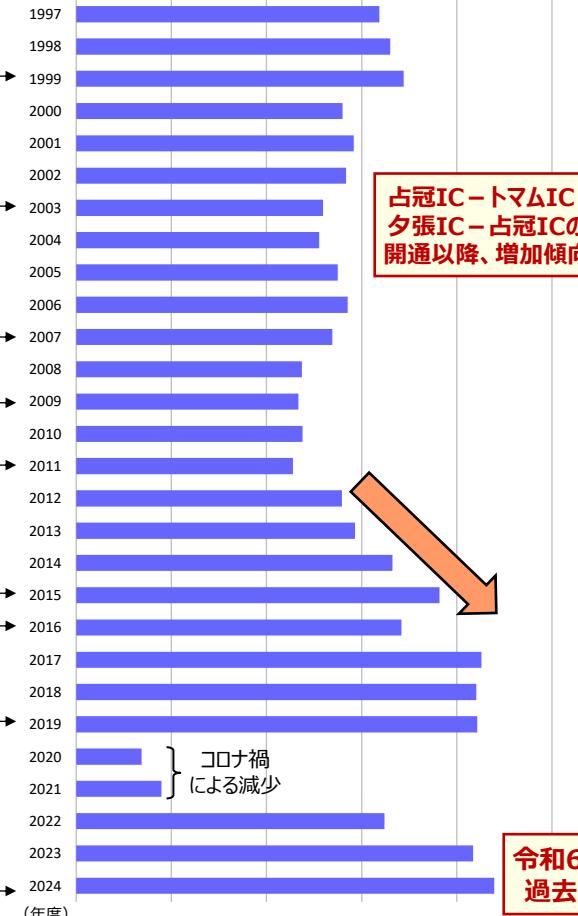
2015 (H27) 浦幌IC～白糠IC

2016 (H28) 白糠IC～阿寒IC
釧路西IC～釧路東IC

2019 (R1) 釧路東IC～釧路別保IC

2024 (R6) 阿寒IC～釧路西IC

(千人) 10,000 12,000 14,000 16,000 18,000 20,000

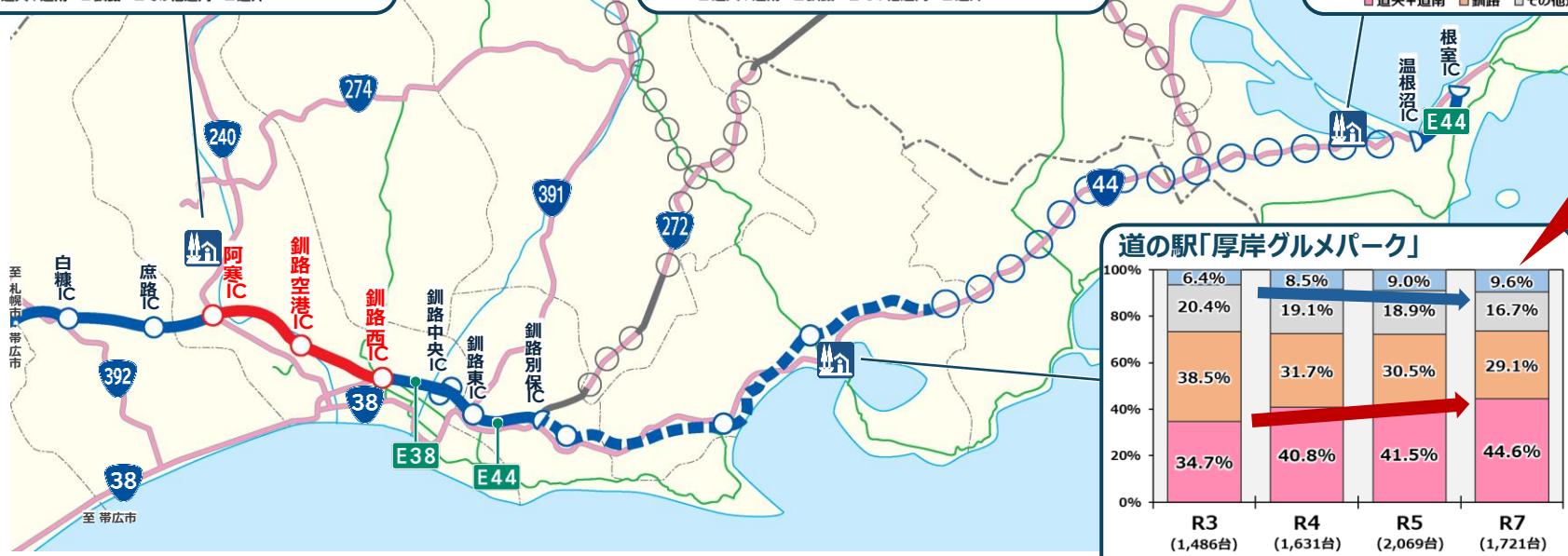
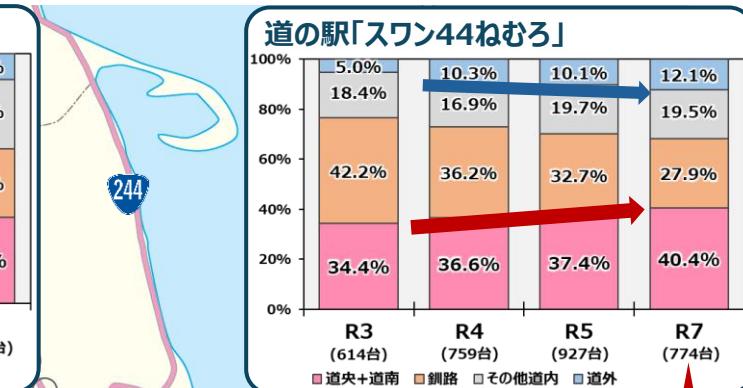
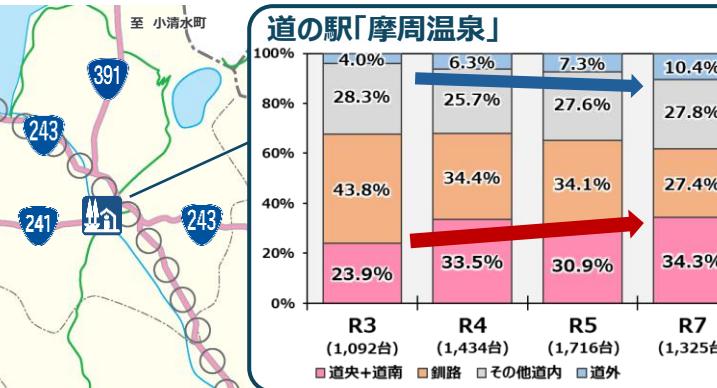
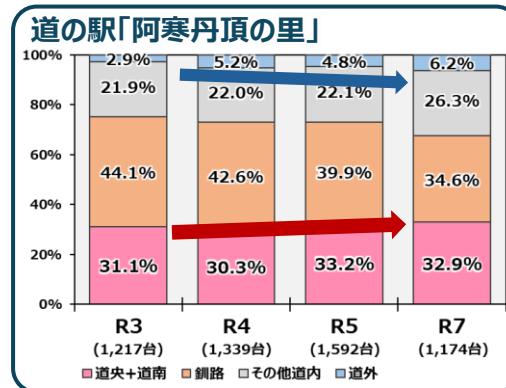


資料：北海道観光入込客数調査報告書（北海道）

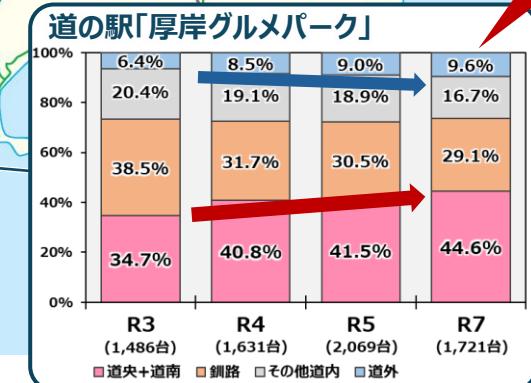
※十勝総合振興局、釧路総合振興局管内の市町村の観光入込客数の合計値

観光期に釧路・根室地域への遠方からの来訪者割合が増加

- 観光期(GW、お盆)の釧路・根室地域の道の駅来訪者は、道央・道南方面や道外からの割合が増加傾向。
- 道の駅「厚岸グルメパーク」や道の駅「スワン44ねむろ」では、5割以上が道央・道南方面や道外といった遠方からの来訪者。



5割以上が遠方
(道央・道南方面、
道外)からの
来訪者



*各年のGW、お盆の調査日の8時～18時に道の駅を訪れた乗用車（レンタカーを除く）のナンバープレートを調査し集計

【調査日】R3 : 5.1(土)、8.14(土) R4 : 4.30(土)、8.13(土) R5 : 5.3(土)、8.13(日) R7 : 5.3(土)、8.13(水)

道央+道南は札幌・函館・室蘭・苫小牧、釧路は釧路、その他道内は帯広・北見・旭川・知床・十勝のナンバープレートを集計

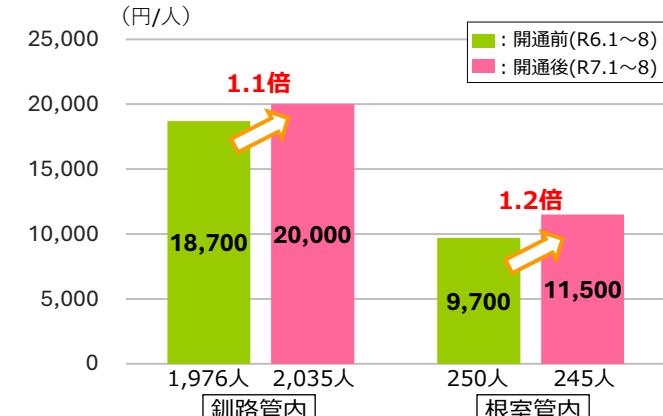
凡 例	
高規格道路	開通済
自動車専用道路	開 通
事業中	---
調査中	○○○
その他	---
調査中	---
開通済	---
その他の	○○○
一般国道	---
主要道道	---

釧路・根室地域の観光消費額が増加

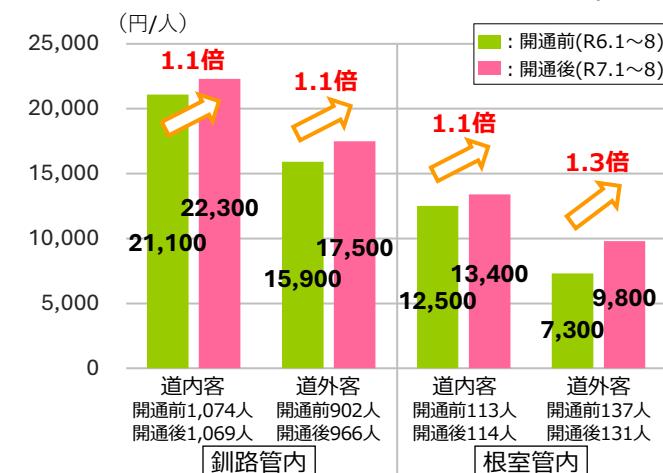
○釧路・根室地域内での1人あたりの観光消費額は、阿寒IC～釧路西ICの開通前と比較して、道内客・道外客ともに増加。

○道東道開通による移動利便性の向上が釧根地域の観光活性化を支援。

▼エリア別観光消費額（1人あたり）



▼道内客・道外客別観光消費額（1人あたり）



資料：北海道開発局調べ

※国内大手銀行（1行）およびそのグループ会社発行のクレジットカードの統計決済データより、カテゴリーが観光と定義される決済を「観光消費」としている

※観光と定義される決済カテゴリー：旅行、宿泊施設、空港施設、売店、交通、自動車、娯楽、スポーツ関連

災害時における「代行輸送」により人流・物流の維持に貢献

- 北海道で初めて線状降水帯が発生した令和7年9月の大雪によるJR運休時には、道東道の本別IC～釧路空港IC間も21日4時台から通行止めとなつたが、**翌22日3時には本別IC～阿寒ICの通行止めを解除**。
- 大雨の翌日の22日からは道東道を利用した旅客・貨物の代行輸送が行われ、**人流・物流の維持に貢献**。

▼大雨によるJR運休時の人流・物流動向（令和7年9月20日～10月4日）



声 物流事業者

- 豪雪が発生したR7.9.20の翌々日となる9.22から10.4までの期間中、トレーラーによる代行輸送を6社以上の輸送業者に委託した。
- 帯広-釧路間における災害発生時の代行輸送は、阿寒IC～釧路西IC開通前は国道38号を主に利用していたが、**R7.9.20からのJR運休に伴う代行輸送では、輸送距離および輸送時間が短縮され、輸送効率が大幅に改善されたことから道東道を利用**した。
- 災害時の代行輸送ルートの選択肢が増えることは大きなメリットであると感じる。

声 バス事業者

- 災害などに伴うJR運休時の代行輸送は、以前は国道38号から白糠町経由で釧路方面に向かうことが多かったが、**R7.9.23からの代行輸送は、道東道を利用して帯広駅-釧路駅間を輸送**した。
- 道東道の開通により釧路駅へ向かう際の時間短縮と定時性の効果が大きい**と感じている。
- 代行バス利用者から、「釧路駅まで早く着けた」との声も聞こえてきており、お客様も道東道開通による時間短縮の効果を感じているのではないかと思う。